

学びがひろく 豊かな人生

令和元年11月7日(木曜日)
第50回関東甲信越静社会教育研究大会
講師:野島 正也(学校法人文教大学学園)

1 「人生100年時代」とはどのような時代か

・それぞれの人が100歳まで生き(られ)るかもしれないと思える時代

①不安と期待

- ・長生きリスク: 疾病、無為・孤独、貧困、世情不安…
- ・可能性の持続: 人生いくつになっても好奇心、中核的動機 (G. Allport)

②「人生100年時代」の社会

- ・子供たちが夢に向かって頑張ることができる社会(経済事情に関わらず)
- ・いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会
(人生100年時代構想会議「人生100年時代構想」(平成29)より)

2 「後半の人生」への注目

①定年前後の振り返り (retreat)

- ・団塊の世代: 「仕事一途の人生」の陥穽 ~ コミュニケーション問題

②従来の「教育・仕事・老後」の3区分 → 「マルチ・ステージ」へ

(リンダ・グラットン(Lynda Gratton) ロンドン・ビジネス・スクール教授)

③川柳市民投句からの示唆 ~ 定年の前と後で

- 「日曜日 ウンとオイッで 会話すみ」
- 「逆らわず ただうなずいて 従わず」
- 「退職後 犬の散歩で 知る近所」
- 「肩書が 消えて人間 取り戻し」
- 「忘れえぬ 人はいるけど 名を忘れ」
- 「生きるとは 鳴きつくすこと 蟬しぐれ」

3 生活基盤としての地域コミュニティ

①地域コミュニティの変遷

ムラの関係→マチの形成→高度経済成長期のマチの衰退→見直し→？

②いま、地域は…

- ・『孤独なボーリング』(Robert Putnam, 2000) が示唆するもの
- ・「弱いつながり」(Weak Ties, Mark Granovetter, 1973) への注目

③これからの地域は

- ・「好縁社会」(好み・関心でつながる新しい地域コミュニティ)
- ・社会教育のミッション→「学び」を通して地域コミュニティの形成を

4 地域での「学び」はどのように

①日々の暮らしが「学び」の場

- ・雑談・世間話の中に「学び」はある ～カギは、自ら切り出す「対話力」
- ・作家・吉川英治「我以外皆我師」
- ・雑談とは：取り交わされる情報に優劣なし。双方の自在なやりとりの中でさらなる自分の考えが生まれていく (鶴見太郎『座談の思想』)

②「ひとり学習」も楽しい

- ・ラジオ、テレビ、PCなどネットの活用 (つながり感情は本物?)
- ・図書館、博物館系施設での学び
図書館レファレンス担当や博物館アテンダント等との接触も効果的
- ・学んだことについて他者と話す機会は、学びの深まりの重要な変数

③講座・教室で仲間と学ぶ

- ・人生いつでも「学び直し」の適齢期
- ・公民館等の社会教育施設での講座、サークルなどでの継続的な学び

5 社会教育事業のもっかの課題 ～公民館を例にして

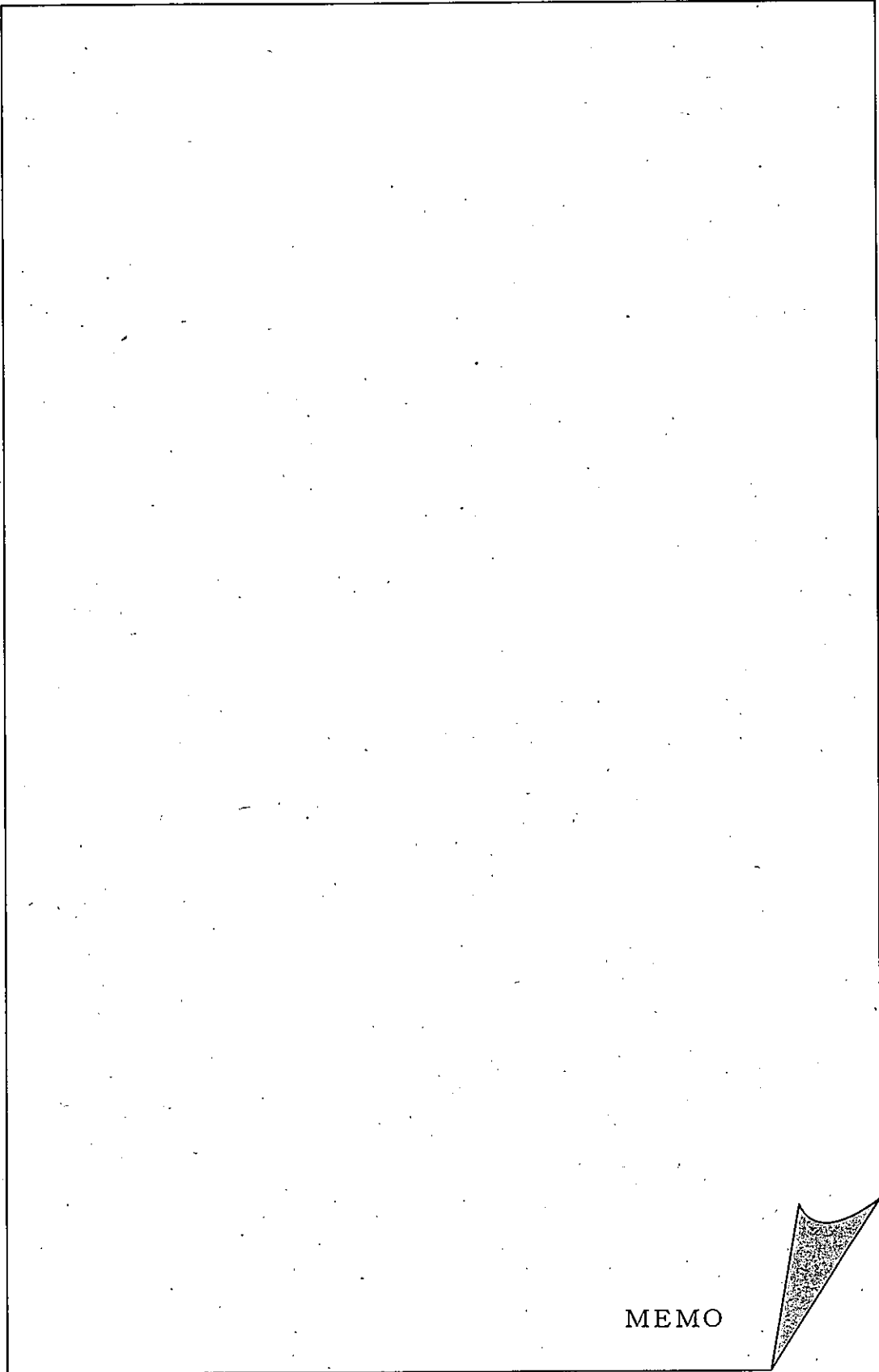
①学級・講座 → 公民館が中心になって企画

- ・ノンフォーマル学習の貴重な機会
- ・「通俗教育」の伝統 ～俗(生活)に通じる(役に立つ)ための学び
- ・講座開設への積極的な姿勢を
社会的課題・地域課題の掘り下げ、スコープとシークエンスの構成
- ・「話し合い学習」風化の懸念

- ②サークル活動 → 地域住民が活動の主体、組織的活動の体験の場
- ・「みて学び、やって学び、教えて学ぶ」の実践
 - ・参加者にとっては「中洲の葦」のようなところ
 - ・施設はサークルに何を期待するか（事業運営方針の明確化）
交流・学習の場の提供、組織運営体験の奨励、地域活動への期待…
- ③広い間口の「イベント」（公民館のまつりや各種発表会・展示会）
- ・地域住民や館の利用者の人生経験・学びの成果を結集。入退場自由。
 - ・イベント参加での「好感」は、その後の公民館各種事業参加への第一歩
 - ・公民館と利用者組織との協働を前提とした役割分担
 - ・入場者目線で会場の点検を（受付、展示、実演…）
- ④広報活動 ～自治体広報紙、チラシ配布・回覧、そして呼び掛け
- ・「三割社会教育」の壁を超える
 - ・公民館は「来てもらって半分、満足してもらって半分」の仕事
 - ・公民館は、「不利益」な施設？ → 公民館に行くことの「利益」は何か
 - ・地域でそう遠くない施設。「遠い」は気持ち次第で「近い」にもなる
 - ・公民館で得られるもの…
 - ア 新しいこと(情報・体験)に出会う機会をもてる
 - イ 人と交わる機会をもてる（→ 情報の交わりと感情の交わり）
 - ウ 役割を通して人に認められる機会をもてる（→ 信頼と自信に）
- ⑤公民館から地域へ
- ・一人の地域人として日常生活を楽しむ～生き方の手本（role model）に
 - ・さまざまな地域活動に参加する
地域行事への参加、地域のNPO・ボランティア活動、公民館・学校・福祉施設でのボランティア活動…

おわりに

- 人は本来的に社会的動物。つながりつつ知恵を出し合うのが地域のよさ
- 社会教育を通して、人は地域の中でもっと「元気」になれる



MEMO